水 産 の 窓

７ － Ｎ ｏ ．５
令和７年５月３０日
茨城県水産試験場

春シラス漁の漁況経過と見通し

（１）春シラス漁（2～7 月）の漁況経過

今年は 2 月に 1.7 トン、3 月は 0.7 キロと漁期始めは低調で推移しましたが、4 月中旬から漁獲量が増加し、4 月は 51 トン、5 月は 27 日までの速報値で 198 トンとなっています（図 1）。

また、シラスの種組成は、漁期はじめ（２月）はカタクチイワシ主体となったのち、４月～５月上旬はマシラス主体で推移しましたが、5 月中旬からは再びカタクチシラスの割合が増加してきています。

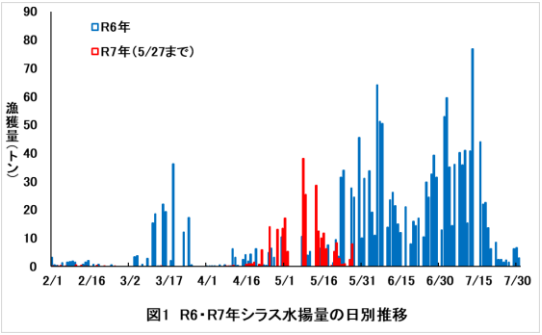

図1 R6・R7年シラス水揚量の日別推移

（２）今後の見通し

本県の 6 月と 7 月のシラス漁獲量は、水温が高くなるほど増加する傾向にあります（図 2）。

現在、沿岸に北方から冷水が差し込んでいますが、黒潮続流の北偏傾向は継続しており、本県沖は引き続き黒潮からの暖水波及の影響を受けると考えられる（図 3）ことから、6 月の本県沖の水温は「平年並～やや高め」で推移すると考えられます。

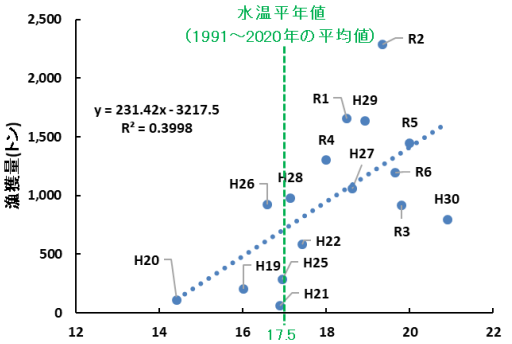

図2 6月の10m深水温と6+7月の漁獲量の関係
(H19～R6 ※H23・24除く)

また、調査船「せんかい」による沿岸部におけるカタクチイワシ卵の調査では、4 月に多くの卵が確認されたのち、5 月にはさらに増加して極めて多くの卵が確認されています（図 4）。4 月に確認された卵は 6 月上旬頃から、5 月に確認された卵は 6 月下旬頃から 7 月上旬頃に新規群として加入すると考えられ、6 月からはシラス漁獲量の増加が期待されます。

一方、「いばらき丸」による海洋観測調査では、カタクチイワシの他にマイワシの卵仔魚も多く確認されたことから、今後漁獲物にマシラスが混じると想定されます。

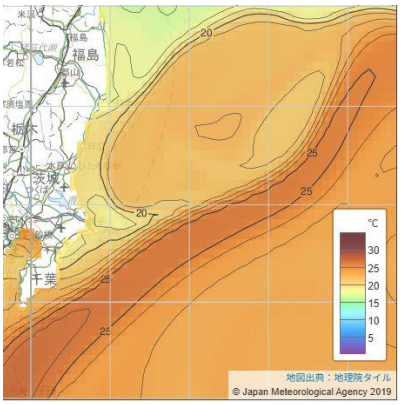

図３　６月中旬の予想海面水温図
※気象庁「海洋の健康診断表」を加工して作成

（３）まとめ

今年の春シラス漁は、漁期はじめには低調で推移したものの、黒潮続流の北偏傾向や暖水波及の影響により 6 月の本県沖の水温は「平年並～やや高め」となる見込みであるほか、4 月、5 月に多くのカタクチイワシ卵の供給が確認されていることなどから、6 月から漁獲量が増加することが期待されます。**春シラス漁（2～7 月）の漁獲水準は「中漁」（330～1,640 トン）**になると予測されますが、卵の供給、水温等シラスにとって好適な条件が整っていることから「好漁」に近い水準になると考えられます。

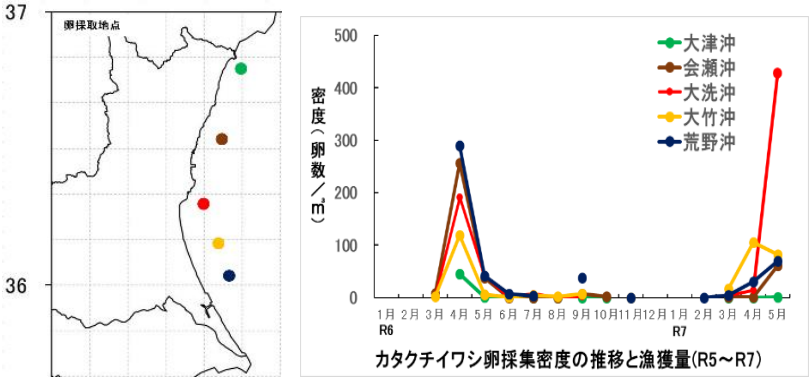

図４　「せんかい」卵調査結果

（回遊性資源部　長谷川　拓哉）

次号予告：R 6.6.7の「水産の窓」は「海洋観測結果」を予定しています。